



ご挨拶

本日は“*A-Winds*54”2018年春の演奏会にお越し下さり、誠に有難う御座います。「こころ豊かな文化の香り高き町 大和郡山市」のお城の麓“やまと郡山城ホール”で皆様方と、お逢いをする事ができましたことに*A-Winds*一同心より御礼申し上げます。四季折々に開催する、*A-Winds*の定期演奏会も54回目を迎えることができました。これもひとえに我々*A-Winds*の音楽活動をこよなく愛して下さった皆様方の御指導御支援の賜物と、厚く御礼申し上げます。

近代アイルランドを代表する作曲家／プロデューサーのビル・ウィーランの世界的代表作品『リバーダンス』。1995年、アイルランド/ダブリンでの初演、1999年に日本に初上陸以後、全世界を熱狂の渦に巻き込んだ、体幹や腕を使わず足のみの、アイリッシュ・ステップダンスを駆使したダンスと、アイルランド音楽を中心としたショーです。叙情的で語るような前半、哀愁を帯びた民謡調なメロディーエネルギーな混合拍子による、繰り返しのたたみ掛けるような舞曲。一度観聴きしたら忘れられない印象的な作品。

一方日本の吹奏楽界を代表する作曲/編曲家、真島俊夫氏に2001年に東京俊成ウインド オークストラの委嘱で作曲された吹奏楽曲。こちらは“日本的な題材”を西洋的技法にて臨場感溢れる様を見事に表現された『3つのジャポニスム』。氏が代表を務められていた「アトリエ・エム」は、私自身も幾度と、このジャポニスムのアナリーゼの件でコンタクトをさせてもらったことも。日本的な3つのテーマを、丹頂鶴の求愛ダンス：「鶴」。冬の川に、雪がしんと降り続ける墨絵：「雪」。“タン、タ・タンタン、タン、タ・タンタン”ねぶた：「祭」。3つの楽章で各テーマ：日本の四季、自然や文化を表現。アイルランドと日本で、こうも違うものかなと思いつつこの大和郡山の地にて凝縮し、21世紀の我々*A-Winds*による吹奏楽で【臨場感】を感じていただけるよう、精一杯演奏させていただきます。乞うご期待～♪

笛太鼓 温故知新の 拍競演

*A-Winds*奈良アマチュアウインドオーケストラ 団長 魚谷 昌克

*

本日はご来場ありがとうございます。“*A-Winds*54”2018年春の演奏会では「思い出」をテーマに、惜別の情と新たな出会いへの期待を演奏に乗せてお送りします。

今回は客演指揮に大阪交響楽団チューバ奏者の潮見裕章氏をお迎えし、プログラムには繊細で美しい歌がちりばめられた「エアーズ」、世界中の人々に今なお愛される「リバーダンス」、吹奏楽界の巨匠、真島俊夫による「3つのジャポニスム」などをご用意いたしました。

情熱あふれるダイナミックな指揮とともに、懐かしの思い出を呼び起こせるような演奏をお届けできれば幸いです。

“*A-Winds*54”2018年春の演奏会 実行委員長一同

“*A-Winds*55”2018年夏の演奏会のご案内

2018年6月9日(土) 16:00開演

DMG MORI やまと郡山城ホール 大ホール

“*A-Winds*55”2018年夏の演奏会では、客演指揮者に潮見裕章氏を迎えて、吹奏楽オリジナル曲から高 昌帥作曲の『パンソリックラブソディ』、管弦楽のアレンジ曲から矢代秋雄作曲の『交響曲より第4楽章』を中心にお届けします。オリジナルとアレンジの響きの違いを楽しんでいただきたく、団員一同心よりお待ちしております。

“*A-Winds*55”2018年夏の演奏会 実行委員長 佐藤 司



*A-Winds*奈良アマチュアウインドオーケストラ

Music Adviser 潮見 裕章	Alto Saxophone 島田 博一 三宅 利幸 池川 眞常♪	Euphonium 尾登 勇介 池内 砂織
Piccolo 佐藤 由加里	Tenor Saxophone 初岡 和樹	Tuba 杉浦 小道 堤 正治郎♪
Flute 佐藤 司 魚谷 陽子 小谷 愛奈 大塚 由起	Baritone Saxophone 八木 理	Contra bass 佐藤 良一
Oboe 桶谷 牧子 松井 志穂(休団)	Horn 久野 耕三 大田 雅美 富川 陽太 西島 華奈子	Percussion 久保 寛美(休団) 松嶋 春香 梶本 雅子(休団) 森田 晶 浦野 佳美 小野 聖子 谷口 麻子 川本 理恵♪
B♭ Clarinet 竹村 明恵 近藤 晴美 山崎 麻里子 米田 彩乃 山上 紗季 森 望	Trumpet 魚谷 昌克 表 恭子 富川 綾香 谷田 弥生 山本 洋介 大西 伸幸	Piano 八木 真木
Alto Clarinet 大西 晴己	Trombone 小泉 文浩 田中 由美 木下 真由美(休団) 徳田 篤彦♪	Stage Manager 西本 晃世♪
Bass Clarinet 菅野 真奈		Announcer 境 貴子♪
		団員合計 44名 ♪ = エキストラ

“*A-Winds*54”2018年春の演奏会 実行委員

実行委員長 クラリネットパート プログラムノート 大塚由起 宣伝(web) 池内砂織	宣伝(ミニレター) 小谷愛奈 宣伝(マスコミ) 西島華奈子 宣伝(チラシ) 谷田弥生・田中由美	印刷 佐藤司 デザイン 浦野佳美
---	--	---------------------------

*A-Winds*メンバー募集

- 募集パート
- ・ Oboe _____ 1名
※イングリッシュホルンもお持ちの方、まずはご相談ください!!
- ・ E♭ Clarinet _____ 1名
- ・ B♭ Clarinet _____ 3名
- ・ Bass Clarinet _____ 1名
- ・ Bassoon _____ 2名
- ・ Horn _____ 2名
- ・ Trombone _____ 1名
※バストロンボーンもお持ちの方、大歓迎です!
- ・ Euphonium _____ 1名
- ・ Tuba _____ 2名
- ・ Contra Bass _____ 1名
- ・ Stage Manager _____ 1名

- A-Winds*の活動趣旨(ウインドアンサンブル&オリジナル重視)に賛同頂ける方
- ご自分で楽器を準備できる方
- 18歳以上の方
- 全ての活動に賛同頂ける方
- 詳細はお問い合わせ下さい。

問い合わせ先は<e-mail>a-winds@amber.plala.or.jp



2018年3月17日(土) 15:30開場/16:00開演

DMG MORI やまと郡山城ホール 大ホール

主催 ● *A-Winds* 奈良アマチュアウインドオーケストラ

後援 ● 奈良県・大和郡山市・大和郡山市教育委員会・奈良県吹奏楽連盟



第1部 ————— 指揮：富川 陽太

アフリカン・シンフォニー / African Symphony

- 作曲：ヴァン・マッコイ / Van McCoy
- 編曲：岩井直博 / Naohiro Iwai
- 出版：De Haske 社
- 演奏時間：約 4 分

ヴァン・マッコイ & ザ・ソウル・シティ・シンフォニーによって1974年に「ディスコ・ミュージック」として発表されました。神秘的で独特の世界観を持つオリジナル版を吹奏楽ポップスの父と呼ばれた岩井直博が編曲し、現在では吹奏楽の定番レパートリーとして広く認知されています。特に高校野球の応援で演奏される機会が多く、この曲を聴くと暑い夏を思い出す方も多いのではないのでしょうか。

エアーズ / AIRS for Wind Orchestra

- 作曲：田嶋 勉 / Tajima Tsutomu
- 出版：全日本吹奏楽連盟
- 演奏時間：約 5 分30秒

エアーズのエアとはロンドンデリーエアのエアであり、「とにかく吹奏楽で歌を存分に歌わせてみたかった」と作曲者が語る通り、曲全体を通して数曲の歌を歌っているため「エアーズ」と名づけられました。作曲者自身も吹奏楽部の顧問であり、教え子の卒業式の退場曲として作曲した今作品が2004年度全日本吹奏楽コンクールの課題曲として選ばれ、全国大会の舞台上で作曲者自身の指揮と教え子により演奏されるといった快挙を成し遂げた曲でもあります。

リバーダンス / RIVERDANCE — 指揮：魚谷 昌克

- 作曲：ビル・ウィーラン / Bill Whelan
- 編曲：ヘルト・バイテンハイス / Gert Buitenhuis
- 出版：Mythen Hollanda社
- 演奏時間：約 8 分

アイリッシュダンスやアイルランド音楽を中心とした舞台作品『リバーダンス』より、第一幕最後の第9シーンである「リバーダンス」の吹奏楽アレンジです。『リバーダンス』はアイルランドを表現する第一幕と異文化との交流を描く第二幕で構成され、第一幕は、アイリッシュダンスやアイリッシュの音楽をベースに、タップダンスやフラメンコを組み合わせて演じられます。叙情的で語るような前半、哀愁を帯びた民謡調なメロディー、エネルギー的な混合拍子による繰り返しのたたみ掛けるような舞曲。一度聴いたら忘れられない印象的な作品です。



潮見裕章 (しおみひろあき)

1972年、兵庫県相生市出身。1995年に大阪音楽大学を卒業。これまでにチューバを石崎一夫、武貞茂夫、西谷尚生、ロバート・トゥッチ、故トーマス・ウォルシュ、ロジャー・ボボの各氏に師事。

1999年、大阪交響楽団に入団。2002年には牧村邦彦氏の指揮で大阪交響楽団とR・ヴォーン・ウィリアムズ「チューバ協奏曲」を共演し、ソリストとしての活動を開始。2006年に大阪で開催した初のソロリサイタルを皮切りに、東京・大阪・名古屋を中心に各都市で多数のソロリサイタルを開催し、いずれも高い評価を得ている。

また、活動の場は国内に留まらず、2012年にはオーストリアのリンツ、2014年にはアメリカのインディアナ、2016年にはアメリカのテネシーにて開催された International Tuba Euphonium Conference (ITEC) にゲストアーティストとして参加し、ソロリサイタルを開催。2015年6月にはシンガポールにて開催された Singapore Low Brass Festival にゲストアーティストとして招待され、マスタークラスやソロリサイタル、シンガポールフィルハーモニアウインドオーケストラとの共演でフェスティバルの成功に貢献した。そして、同年10月にはヤン・クーツィール作曲「チューバの為にコンチェルティーノ」を工藤俊之氏の指揮で大阪交響楽団と共演。2016年には台湾のサイレンスシンフォニックウインズの演奏会にゲストソリストとして共演し、台北でマスタークラスを開催。2017年には香港で開催されたアジアチューバフェスティバルにゲストアーティストとして招待され、マスタークラスとリサイタルを開催するなど、その豊かな表現力は国内外から多くの注目を集めている。

今までに『Road』(2006)、『Strange』(2010)、『Brand New Morning』(2014)、『Today is the gift』(2016)、の4枚のソロCDをリリース。2014年には3rdアルバム『Brand New Morning』が ITEA (International Tuba Euphonium Association) の主催する "Roger Bobo Awards" に日本人として初めてノミネートされた。

近年では関西を中心に吹奏楽の指導者や指揮者としても活動を展開し、A-Winds奈良アマチュアウインドオーケストラ、大阪シンフォニックバンド、大阪府立市岡高等学校吹奏楽部、をはじめとする多くの団体と演奏会やコンクール等で多数共演している。また、関西を拠点に活動する英国式金管バンドの大阪コンサートプラスや、関東に新しく誕生した英国式金管バンドのプラスバンドゼファーなどの演奏会にも客演指揮者として共演するなど、指揮者としての活動にも情熱を注いでいる。

現在、大阪交響楽団チューバ奏者。大阪音楽大学、非常勤講師。ジャパン・プラス・コレクション、メンバー。ミラフォンアーティスト。

潮見裕章オフィシャルウェブサイト <http://www.eonet.ne.jp/~mmd/>



お知らせ

A-Winds のTwitterとInstagramのアカウント開設のお知らせ
 Twitter : @A_WindsNara
 Instagram : a_winds_nara
https://www.instagram.com/a_winds_nara/

演奏会のご案内、練習日程等々をお知らせします。フォローよろしくお祈いします。

第2部 ————— アンサンブルステージ

**フルート・アンサンブル
クラリネット・アンサンブル
金管アンサンブル**

第3部 ————— 客演指揮：潮見 裕章

アルヴァマー序曲 / Alvamar Overture

- 作曲：ジェームズ・バーンズ / James Barnes
- 出版：Belwin社
- 演奏時間：約 7 分40秒

アメリカの作曲家であるジェームズ・バーンズが1981年にカンザス州中学生選抜バンドの委嘱により作曲しました。親しみやすいメロディと、シンプルでいて感動的な急-緩-急の三部構成で展開される今作品は、発表当初から多くの吹奏楽少年少女の心を鷲掴みにし、日本だけでなく世界中で多くのバンドに演奏されてきました。吹奏楽の大切なレパートリーの一つとして愛される不朽の名作です。

3つのジャポニスム / Les Trois Notes du Japon

- 作曲：真島俊夫 / Toshio Mashima
- 出版：atelier M
- 演奏時間：約18分40秒

2001年、東京佼成ウインドオーケストラの委嘱により作曲されました。3つの楽章から構成されています。日本的(ジャポニスム)な旋律をコラージュのように散りばめ日本の風景を描き出したこの作品は、今までとは違う日本的テイストを持つ曲として世界中から高い評価を得ています。

- I. 鶴が舞う (La danse des grûés)
日本原産の丹頂鶴の求愛ダンスを表現した楽章です。鶴が舞う表現に扇子をたたき合わせる音を使用、また、はばたき、鳴き声等の描写がなされます。
- II. 雪の川 (La rivière enneigée)
冬の渓谷を静かに流れる川に、雪がしんと降り続ける墨絵のような光景を描写しています。
- III. 祭り (La fête du feu)
日本の夏に行われる情熱的な踊りや祭を表現しています。中間部では真夏日の入道雲が広がる景色が描かれ、やがてねぶた踊りのリズムが太鼓により表現されます。